

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ホップ		
○保護者評価実施期間	2025年9月22日		～ 2025年10月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数) 26 (兄弟児は1枚)
○従業者評価実施期間	2025年9月22日		～ 2025年10月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年10月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	年齢により分けた活動のスペースの確保	活動の目的が異なるため主に1階は中学生、2階は小学生を中心とした集団となっている。小学生は「人間関係と遊びの広がり」「コミュニケーション力の向上」「ADLの自立」「安心して過ごせる居場所作り」を、中学生は「自律」「自己選択」「集団の中で役立つ自分を感じる」を目標に同じ活動でも子どもにより働きかけを変えている。	特に中学生は重度であっても生活年齢も考慮し、高等部卒業に向けて集団の中でも自分の思いを伝え楽しみを見つけ充実した生活が送れるような活動を取り入れていく。社会性を身につけていけるような活動も子どもたちと一緒に考えて取り入れるようにする。
2	職員の特性と体制による保護者支援(通園施設経験の職員と障害児の保護者が職員に配置)	身近な障害児の保護者(先輩お母さん)が職員にいてすぐに助言できるように、また児発管からは専門的な助言や相談、関係機関につながるような支援をするなど保護者からの相談等がしやすい環境を作っている。	より丁寧に支援をしていくためにも研修や勉強会への積極的参加や関係機関との連携をはかり保護者とともに成長していけるように支援していく。
3	活動プログラムの内容	毎年恒例となっている活動や行事は子どもたち楽しみにしているので支援の方法は変えながらも継続していく。個々の遊びも様子から集団や友達関係へとつながるような新しい活動も取り入れていく。自由遊びも大切にし、好きな遊びを継続していくことや大人の手も借りながら遊びを広げていく事など個々の課題となることを充実していくことも目標としている。	遊びの固定化や一定の子どもだけが好きな遊びに偏らないように日々の自由遊びの中からも新しい集団活動へとつなげていけるような活動を見つけ職員間でも情報交換をしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がないなどの地域とのつながり	地域住民や子どもたちと活動として関わることはまだまだ少なく発信も弱い。	近辺の公園遊びやスーパーへの買い物などできることからひとつずつ活動として増やしていきたい継続できるようにする。
2	家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供など	家族全体の支援として外部とのつながりや第三者の研修などの取入れは少ない。	保護者自身もたくさんの情報や勉強、多方面の専門的な助言が得られるような橋渡しもしていきたい。また家族全体の支援ができるように関係機関との連携も密にとれる体制を作っていく。
3	保護者同士の交流の機会を設けるなどの家族支援やきょうだい同士の交流の機会を設けるなどのきょうだい支援	保護者向け交流会の要望は多く、ニーズに対応できていないことも多い。きょうだい交流という形は実施したことがない。	保護者の要望が交流会へとつながっていけるように年間でスケジュールをたてたり保護者も一緒になり実施につなげていけるようにする。またきょうだいが参加しやすい交流会の形も考えていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ホップ

公表日 2025年10月31日

利用児童数

31

回収数

26

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	24	2				
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	24			2		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	24	1		1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	25	1				
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	25			1		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	26					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	25			1		
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	23	1		2		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	24			2		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	22	3		1		
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	5	4	5	12		
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	26					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	22	2		2		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	13	6	3	4		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	25			1		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	24	1		1		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	25			1		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	9	5	3	9		
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	22	2		2		

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	24	1		1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	25	1				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	25	1				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	23	1		2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	25		1			
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	25	1				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	21	1	1	3		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	25			1		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	23	2		1		
	29	事業所の支援に満足していますか。	25	1			いつも楽しみに通所しています。丁寧に関わっていただいて感謝しています。活動プログラムにも満足しています。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	ホップ				公表日	2025年10月31日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		指導訓練室は1階に2部屋、2階に1部屋。主に1階は中高生と肢体不自由児が、2階は小学生を中心に利用しスペースを分けている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	2	他害、発作、歩行不安定などの児童もいるため規定の配置人数よりも多くの職員の配置にしている。	送迎時や突発的なトラブルなどで体制的に厳しく感じる時もある。環境を整えることや職員のスキルを上げることも必要。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	1	玄関、1階2階のトイレ、階段に手すりあり。トイレは介助者も一緒に入れるくらいのスペースの確保はある。	階段や小さな段差はある
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	1	毎日、午前中と療育終了時に清掃。玩具や備品等に不備がないかのチェックをするようにしている。	清掃についてもう少し丁寧に行いたい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		1階は個別対応ができるように仕切りをしたり落ち着ける場所の確保できるようにしている。	個別で使用できる部屋の使い方など職員間でも話し合いを重ねていき、環境整備とともに全体共有ができるようにする。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		毎月1回は職員全員参加での会議（療育内容の確認、子どもの様子、担当者会議の報告、研修報告等）を行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		保護者からの意見は職員全体会議で周知している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		職員会議では常勤やパートなどにかかわらず全員が発言できるように努め、改善策などを話し合える場となるようにしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8			今年度も「通所支援事業者育成事業」により課題点などの相談やアドバイスをもらっている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		外部研修などには常勤職員を中心に積極的に参加し、職員全体会議にて他の職員にも報告してもらうことで周知している。	ひとつひとつの研修に対して深く掘り下げることがなかなかできないので内部研修の機会も増やしていきたい。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		子どもの日々の様子は職員からの聞き取りなどからも情報収集している。保護者とは面談等で課題の確認をしている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		全体会議で個々の子どもの課題と目標を確認し、支援の統一性を図れるようにしている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		保護者からのモニタリングやアセスメント、計画等も全体が目を通せるようにしている。また日々の中でも課題や支援の確認はしている。	定期的な課題の見直しや支援の振り返り、情報共有などは引き続き必要（特に新しい職員が入った時などは）
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		スケジュールや活動の手順などは文字、写真、イラスト、時計などを用い視覚支援として個々に合った提示をしている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		保護者の意向も踏まえ、また相談支援からのサービス計画を基に自事業所に合った支援の方法で作成している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		常勤職員が中心となり他の職員の意見も取り入れながら立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		イベント、制作、クッキング、集団遊びなど基本のプログラムの中で内容はその時の子どもの特性などを考慮し、立案している。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		集団で取り組む活動（イベントやクッキングなど）と個別での活動（制作など）も個々の目標に応じて取り入れるようにしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		平日は午前中などにその日の出席確認や活動の内容、個別対応、職員の配置などの確認を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		送迎終了後はその日の活動や個々の様子などの反省と振り返り、情報共有をし他の職員にも次の日には伝達するようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		療育日誌に活動の記録と個々の様子を記録し支援について職員間で検証し、全体会議で支援方法について話し合いをしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		1年に1回は全員と面談を行い、半年に1回は計画の見直しのために保護者にモニタリングと適宜面談を行うようにしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8		活動内容に偏りがでないように子どもの特性も踏まえながらカリキュラムを考えている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8		活動内容を細分化し視覚支援で示し選択できるようにしている。「係活動」では「ごみすて」「洗い物」などから自分で選んでみる。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		会議への出席は基本児童発達支援管理責任者が出席している。その後、全体会議で他の職員に報告している。	今後は常勤など直接支援者にも会議への出席ができるような体制をとっていきたい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		発作やアレルギー対応のいる児童は保護者から主治医の意見書をいただき情報共有している。また必要に応じて会議等に出席することもある。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		特に地域の学校とは保護者了解のもと直接やりとりすることもある。保護者にもまめに連絡をとり行事等で変更があればすくに対応できるようにしている。	地域の学校とのやりとりで困難さを感じることはある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8		児童発達支援センターからの移行児が多く直接センターでの様子や保護者対応について聞き取ることがある。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8		卒業前の作業所等との移行会議に出席し、デイでの様子や支援についての情報を提供している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8		児発管だけでなく常勤職員も研修への参加ができるような体制をとっている	子どもの情報共有の連携だけでなく今後は研修などの形で連携していきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	2		地域の公園で遊ぶ中で他児の様子を見る機会や順番などはあるが一緒に活動するというのはないので今後は検討していきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8		児童発達支援管理責任者が協議会の研修や事例検討会に出席し他職種との連携を持つようにしている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		送迎時に様子の報告をしていることと悩みや新しく課題がある場合は後日児発管が保護者に連絡をするようにしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	2	保護者対象で勉強会や福祉サービス、制度の情報提供に努めている。	他の専門機関とも連携しながらペアレントトレーニング等を研修として入れていきたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		契約時に管理者より保護者に説明をしている。プログラム内容により実費負担等が発生した場合はその都度説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		半年に1回のモニタリングと前期は全員面談を実施し意向を確認。それ以後は適宜面談や電話連絡等で相談に応じている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8		内容については面談時に確認し、変更がある場合は書面にて共有するようにしている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		保護者から相談があった時は必要に応じて面談や電話等で対応している。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	6	2	保護者間交流の目的で座談会等を実施。モニタリング用紙から要望の聞き取りはしている。	兄弟同士での交流は実施したことがないので保護者からの要望があれば交流会のひとつとして今後検討していきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		苦情窓口は管理者（児発管）が担当している。内容は全体で共有し、改善策などを職員で話し合い保護者に返すようにしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7	1	毎月の活動内容等はおたよりを配布。定期的に写真での特別号も併せて配布。連絡体制としてはラインやメールを活用している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	1	請求書、領収書等は個別のファイルに入れて配布するようにしている。苗字が同じ人などは間違いがないように複数人でチェックする。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		視覚支援も活用している。伝達が難しい保護者に対しては訪問やまめに連絡をとるようにしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	4	地域の自治会には加入している。	地域住民との交流などは実施したことはない。今後は行事等を考える時に検討もしていきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		ヒヤリハットの報告と合わせて事故防止や季節的に感染症など全体会議で見直し等も行うようにしている。	定期的なマニュアルの見直しと周知はする。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		年2回の避難訓練の実施（内1回は通報訓練、初期消火の練習）その都度、職員の体制や動きの確認を全体で行う。	いろいろな想定を考え、職員全体で情報の共有は必要。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8		契約時にアセスメントで服薬、発作等の確認はする。特に発作時の対応については保護者と細かく確認し全職員に周知する。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		保護者を通じて緊急時の対応やクッキング、おやつ時の対応等を確認している。変更があった場合はその都度、連絡をとる。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		特に夏休みはプールや外出等があるため職員間で体制や活動の流れの確認は細かくしている。準備やチェックも複数人で確認する。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	1	外出等については保護者にも流れや体制などをお知らせしている。また緊急時の対応等についても連絡がとれるようにしている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		毎月の全体会議でヒヤリハットの報告をし、原因や改善策などを話し合うようにしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	1	外部研修は主に児発管が参加し全体会議で周知している。オンライン研修は他の職員の参加も促している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	1	身体拘束については面談時に保護者に想定される場合の状況や対応方法を説明し同意を得ている。		